

令和 6年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名：青少年課
担当名：企画・非行防止担当
内線：2905 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
P26	バーチャルユースセンター（仮称）事業			一般会計	総務費	県民費	青少年育成指導費	青少年総合支援事業費	
事業期間	令和 6年度～令和 8年度	根拠法令	子ども・若者育成支援推進法第13条			針路	05 未来を創る子供たちの育成	SDGsゴール	
						分野施策	0502 豊かな心と健やかな体の育成	SDGsターゲット	
1 事業概要 居場所の数が多いこどもほど自己肯定感が高く、将来に希望を持っている。こどもが自由に選べる居場所は、地域に加えてより身近なバーチャル空間にも設置して多様性を確保することが必要である。 そこで、バーチャル空間にこどもの居場所となる場を整備することで、あらゆるこどもに「居場所」があり、活躍でき、安心して暮らせる埼玉県を目指す。 バーチャルユースセンター（仮称）事業 事務費の節減等による減額 △2,044千円				5 事業説明 (1) 事業内容 メタバース空間に、小学生から義務教育修了後の大学生程度までのこども・若者が安心して気軽に参加でき、体験・交流・相談等の機能を備えた新たな居場所として、バーチャルユースセンター（仮称）を構築。 令和6年度は、試験的に運用して本番運用に向けた運営方法などを検討する。 (2) 事業計画 ・メタバース空間での居場所の運営 ・居場所運営の検討会議を実施 (3) 事業効果 リアルの他にバーチャルにも居場所を整備することで、あらゆるこども・若者に多様な居場所があり、将来の夢や目標を持つなど、自己肯定感を高めることができる。 また、居場所で大人と信頼関係を構築することによって、こども・若者が生きづらさを感じることがあっても、気軽に相談し、適切な支援により生きづらさを乗り越え、生き生きと活躍することができる。 【活動指標(アウトプット)】 居場所の運営(利用者160人/年)、検討会議(5回程度)、相談(50件/年) 【成果指標(アウトカム)】 ・「居場所だと感じる」と回答した利用者の割合 50% ・居場所の設置により早期相談や深刻化の未然防止が図られたと感じる支援者の割合 80% (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 ・民間有識者を交えた検討会議を設置し居場所の効果的な運営を図る ・居場所の運営を民間団体に委託し、民間のノウハウを活用する ・本事業と市町村の居場所や支援を相互につなぐため、市町村と連携するほか、ノウハウを共有する (5) 補正予算の概要 事務費の節減等による減額					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1人=9,500千円									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	補正後の 予算額
決定額	△2,044							△2,044	16,816
現計額	18,860							18,860	

事業内訳書

事業名	バーチャルユースセンター（仮称）事業		
単位事業名	バーチャルユースセンター（仮称）事業	予算額	△ 2,044千円

○歳入

（単位：千円）

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	△2,044	—	
合計	△2,044	—	

○歳出

（単位：千円）

節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
報償費	△485	—	事務費節減による報償費の減
旅費	△30	—	会議開催方法見直しによる旅費の減
役務費	△1,430	—	事務費節減による広告料、手数料の減
使用料及び賃借料	△99	—	会議開催方法見直しによる会議室使用料の減
合計	△2,044	—	